

川越まつり

10月17日(土)・18日(日)開催

今年は26会の山車が参加

県＝県指定有形民俗文化財

市＝市指定有形民俗文化財

歴＝川越市歴史文化遺産山車

①旭町三丁目(信綱)

②今成(鉦女) 県

③大手町(鉦女) 県

④喜多町(秀郷) 県

⑤幸町(小狐丸) 県

⑥三久保町(頼光) 歴

⑦志多町(弁慶) 県

⑧新富町一丁目(家光)

⑨新富町三丁目(鏡獅子)

⑩末広町(高砂) 歴

⑪菅原町(菅原道真)

⑫仙波町(仙波三郎安家)

⑬通町(鍾馗)

⑭中原町(河越太郎重頼) 歴

⑮西小仙波町(素戔鳴尊) 歴

⑯野田五町(八幡太郎)

⑰松江町一丁目(龍神) 市

⑱松江町三丁目(浦嶋) 県

⑲南通町(納曾利)

⑳宮下町(日本武尊) 歴

㉑元町一丁目(牛若丸) 歴

㉒元町三丁目(山王) 県

㉓達達町(道灌) 歴

㉔六軒町(三番叟) 県

㉕脇田町(家康)

㉖川越市(猩猩)

※()内は山車の名称。

川越駅観光案内所☎222-5556

(午前9時～午後5時)

※川越まつり当日は午後9時まで。



370年以上の伝統を誇る川越まつり

「川越氷川祭の山車行事」として平成17年2月、国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年12月「ユネスコ無形文化遺産」に登録された川越まつり。慶安元年(1648)、当時の川越藩主である松平信綱が、氷川神社に獅子頭や神輿などの祭礼用具を寄進したことに始まります。それから3年後、神幸行列が初めて町内を巡りました。その行列の後を町人たちは供奉しました。

これが、現在の川越まつりのルーツです。

まつりの見どころ

曳っかわせ 17(土) 18(日)

山車が会おうと正面を向き合わせ、囃子の競演が始まります。周りの曳き手は威勢よく提灯を掲げ、まつりは最高潮に盛り上がります。



神幸祭 17(土)

氷川神社の神輿が巡行する伝統儀式。山車行事の原型です。

時出御＝午後1時

還御＝午後2時30分ごろ



宵山 17(土)

山車に提灯が灯り、居囃子を披露。山車やお囃子をじっくり楽しむことができます。

時午後6時～7時ごろ

場各所



市役所前山車巡行 18(日)

市役所本庁舎前を山車が巡行します(山車揃いは行いません)。

時午後1時30分～4時ごろ

氷川神社本殿とのつながり

今年9月4日に国の重要文化財に指定された氷川神社本殿。本殿の腰羽目の彫刻は、川越まつりのルーツといわれる川越氷川祭で城下町川越十ヶ町が出す山車人形がモチーフとなっています。

川越まつりナビ

山車のリアルタイムの位置情報、トイレ、休憩場、臨時駐車場への道案内にも対応。川越まつりを楽しむための機能が満載です。

※利用無料(データ通信料などは自己負担)



川越まつり写真コンクール

川越まつり会館☎225-2727
☎227-5001

応募方法など詳しくは、川越まつり会館・観光課(本庁舎5階)・市民センター・観光案内所等で10月上旬ごろから配布予定の応募要領または同館☎をご確認ください。

※☎は準備ができ次第、公開します。

川越まつり交通規制

■ = 車両通行禁止



10月17日(土)・18日(日)
午前10時～午後10時

*川越まつり開催中は、信号機の位置を上げたり、縦型に取り付けしている交差点があります。ご注意ください。



路線バスのご案内

バス路線の変更(両日の終日)

- 東武バス
- 西武バス
- イーグルバス
- 川越シャトル

臨時バス停 = 喜多院前・初雁球場・石原町に臨時のバス停留所を設置(川越駅発東武バスの下り線のみ)

臨時駐車場(両日の午前8時30分～午後10時) = 右図のP1～6

*P3～6は雨天等による校庭の状況で使用できない場合があります。

臨時駐輪場(両日の午前8時30分～午後10時) = 中央小学校、市役所北側観光バス乗降場



川越鳶

～受け継がれし伝統と技～

インタビュー

山車の曳き回しを支える鳶職人の歴史や活動、川越まつりでの見どころなどを川越鳶組合頭取・鈴木英明さんに伺いました。



川越鳶の歴史



最も古い記録で天保15年(1844年)に川越氷川神社に絵馬を奉納したという記録が残っており、今年で183年を迎えます。これは県内でも最古の鳶組合の記録で、城下町川越の歴史の奥深さを感じさせるものです。

鳶組合の活動

年始や春まつりなど節目のイベントで^{まとい}纏やはしご乗りを披露したり、年末に喜多院・木遣り塚の掃除や川越まつりで山車の運行操作なども行っています。

現在、組合員の数が年々減ってきており、40年前の半以下にまで減少しています。今後は鳶の伝統と技術をどう継承し、後継者を育成していくかが課題です。

川越まつりでの見どころ

山車の運行が一番の見どころです。安全に山車が^{えいこう}曳行できるよう、また、お祭りが盛り上がるように、鳶頭の拍子木の音に合わせて山車の静動を決め、他の鳶たちが車輪にボールを差し込み進行方向をコントロールします。車輪の移動は山車本体に負担がかからないように最小限にし、また、曳っかわせでぶつからないぎりぎりの位置に寄せられるように行います。山車は後ろに後退することを嫌うので、路面の凹凸や他の山車の進行を予測して数十m前から少しずつ移動を始めます。ぜひ拍子木を打つ鳶頭と車輪を操作する鳶との息の合った姿を見てほしいです。

